

令和元年度学校法人福岡大学外部評価結果

学校法人福岡大学外部評価委員会では、令和元年度学校法人福岡大学の自己点検・評価の一環として、福岡大学が策定した「学位授与」「カリキュラムの編成・実施」「入学者選抜」に係る三つのポリシーの内容及び各ポリシーに基づく諸活動の適切性について、各学部・研究科が自己点検・評価をした結果等をもとに、第三者の視点から評価を実施した。

各学部・研究科においては、三つのポリシーに基づき概ね適切に諸活動が実施されていると評価できる。しかしながら、一部の学部・研究科では、形式的に整っているというだけで実質的な面で課題が見受けられるところもある。今後、更なる教育の質向上を図るため、以下の点を中心に、改善に向けて取り組んでいただきたい。

1. ディプロマ・ポリシーについて

(1) 学部・学科

- ・ディプロマ・ポリシー（以下「DP」という。）に述べてある学習成果を、どのような方法で評価するのか不明である。また、多くの学部や学科において、DPの内容に重複があり、各学科で育成する人材の特色が明確でないように思われる。DPにおいて、学部・学科の特色を出しつつ、具体的にどのような能力を持った学生に学位を授与するのか、またその能力をどのように評価するのかを明示することが望まれる。
- ・学部と学科のDPの内容を再点検し、整合を図ることが望まれる。
- ・DPで示した学習成果を把握するために、カリキュラム・ポリシー（以下「CP」という。）に述べられている各科目のルーブリックを明確化し、かつ教員間で共有したうえで、客観性を担保した成績評価を実施することが望まれる。

(2) 研究科・専攻

- ・研究科により、「学位取得に至るまでのプロセス」「学位審査基準」「学位取得に必要となる学習成果」等に関する内容の記述に精粗が見られるため、大学として基準を定めて統一するなど、改善に向けた組織的な対応が望まれる。
- ・今後、福岡大学がグローバルな発展を目指すのであれば、専門分野によっては、インパクトファクターを有する英文誌に掲載された論文を博士論文の条件に加えることを検討していただきたい。

2. カリキュラム・ポリシーについて

(1) 学部・学科

- ・学部と学科のCPの内容を再点検し、整合を図ることが望まれる。

(2) 研究科・専攻

- ・研究科と専攻のCPの内容を再点検し、整合を図ることが望まれる。

3. アドミッション・ポリシーについて

(1) 学部・学科

- ・ 今後は多様な入試形態のもとで、「知識・技能」だけでなく、「思考力」や「主体性」なども踏まえ、多面的・総合的に評価することが求められるため、受験生の学力をどのような方法で評価するのかを具体的に示すことが望まれる。
- ・ 学部のアドミッション・ポリシー（以下「AP」という。）について、「〇〇のような人材を養成するために、〇〇の意欲や志向性、知識や力を持った人を求める」といった人材育成に向けた全体的な枠組みを提示したうえで、学科のAPとの整合を図ることが望まれる。

(2) 研究科・専攻

- ・ 研究科と専攻のAPの内容を再点検し、整合を図ることが望まれる。

4. 全体を通して

(1) 点検・評価方法について

- ・ 現状の分析だけではなく、課題に対する具体的な解決策まで示すことが望まれる。

(2) 三つのポリシーの再検討について

- ・ DP、CP、AP相互の関係性や、学部と学科のポリシーの関係性を再点検し、整合を図ることが望まれる。
- ・ 三つのポリシーの再検討に際しては、大学全体の方針や将来ビジョンを明確にしたうえで、それを踏まえて各学部・研究科等のポリシーを考える必要がある。また、教職協働による対応、全学的な視点からの点検等も必要であり、その体制の確立が望まれる。
- ・ 大学の方針や将来ビジョンの策定にあたっては、これからの社会における諸課題や今後の技術革新等を踏まえて、福岡大学として教育、研究、医療及び社会貢献にどのように取り組むかという観点が重要である。

(3) 体制整備等について

- ・ 学長のガバナンスのもと、教育の質向上に向けた組織的な取り組みを推進する体制の構築が重要である。そのためにも、意思決定に係る各種会議体の権限を明確にしておく必要がある。

令和元年 11 月 14 日

学校法人福岡大学外部評価委員会

委員長 永田 見生 ㊞

(学校法人久留米大学 理事長・学長)

委員 高木 直人 ㊞

(公益財団法人九州経済調査協会 理事長)

委員 中村 英一 ㊞

(福岡市副市長)

委員 丸野 俊一 ㊞

(国立大学法人九州大学 理事・副学長)